

ドイツの家畜豚におけるアフリカ豚熱（ASF）発生について

※下線部は更新点

- ・ 本年7月16日（現地時間）、ドイツ食料・農業省（ドイツ当局）は、ポーランドとの国境沿いドイツ東部ブランデンブルグ州において家畜豚におけるアフリカ豚熱（ASF）が発生した旨を公表した。さらに、7月17日、2例目から3km離れた農場において家畜豚での発生が公表された。本件について、7月19日付で（現地時間）、ドイツ当局から我が国へ情報提供があった。

- ・ ドイツ当局の発表及び我が国への情報提供によると、同州の3農場の家畜豚について、ドイツ国内の研究所で検査を実施した結果、ASF陽性となった。現在、発生農場の周辺に制限区域を設定する等の防疫措置が講じられている。

1例目：シュプレー・ナイセ地区ナイセ＝マルセタールの有機農場

（繁殖農場、全頭ストールで飼養、313頭（幼豚169頭・母豚83頭・若齢豚58頭・種豚3頭）

2例目：メルキッシュ・オーダーランド地区レチーンの小規模農場

（バックヤード（肥育）、全頭屋内飼養、肥育豚2頭）

3例目：メルキッシュ・オーダーランド地区レチーンの小規模農場

（バックヤード（肥育）、全頭屋内飼養、肥育豚4頭）

※2例目と3例目の農場間の距離は約3km。

- ・ ドイツ当局の報告によると、発生した3農場には、現時点で直接的な疫学的関連は見つかっておらず、発生農場では可能な限りの対策を実施していたが、ASFウイルスが外部から農場に持ち込まれたと考えられるとしている。また、ドイツ当局は疫学的調査を継続中であるとしつつ、7月及び8月はASFまん延リスクが高い時期（注）であることに言及している。

注：野生イノシンが生息しているような地域への人の出入りが多いシーズンとのこと。

- 我が国は、昨年9月の野生イノシシにおける発生を受けてドイツからの豚、豚肉等の輸入を一時停止(2020年9月11日付)しており、現在も停止中。そのため、今回の発生を受けて新たな措置を講じることはないが、引き続き情報収集を継続する。

- ドイツ食料・農業省プレスリリース (ドイツ語)

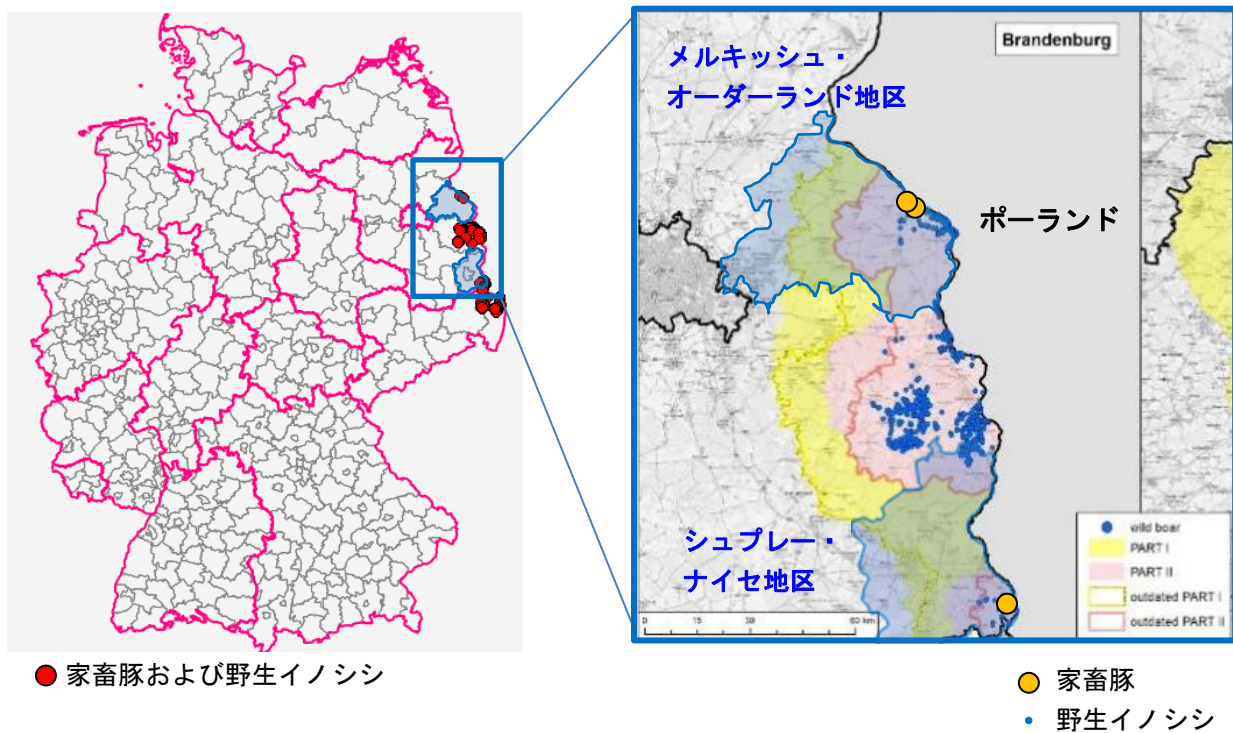
(1、2例目)

<https://www.bmel.de/SharedDocs/Pressemitteilungen/DE/2021/119-asp-hausschwein.html>

(3例目)

<https://www.bmel.de/SharedDocs/Pressemitteilungen/DE/2021/122-asp-hausschwein-weiterer-fall.html>

- 発生場所の地図



地図出典：Tier Seuchen Information System(TSIS)、欧州委員会ウェブサイト